

論文コンクール国交大臣賞受賞者に聞く



渡辺 泰充氏
レジデント・エンジニア

——今回の論文に応募した経緯を教えてください。

「ネットの記事を見て募集を知り、今年から年齢制限がなくなるということだったので、すぐに応募しようと思った。動機は、エンジニアという職業の楽しさ、すなわち私の今の生活を後に続く人に伝えたいということに尽きる。日ごろ思っていることを文字にしただけだったので、論文は1日で書き上げた。応募まで2カ月間推敲（すいこう）を重ね、親しい友人にもアドバイスをもらった」

「エンジニアの仕事の楽しさと醍醐味（だいごみ）は何ですか。『エンジニアとして自分の考えが『考える』べきことは三つある。『何が起るか』『それにどう対処するか』『予測できなかったことが起った時にどうするか』で、これらに間違いなく答えを出

せるのが一流のエンジニアだ」

「一流のエンジニアになるのは並大抵ではないが、一流になれば仕事は楽しく、尊敬を集め、待遇もよくなる。社会資本を整備するということは、国民の命を預かるということ。計算や図面に間違いがあれば人が死ぬ。それだけの責任があり、医者や弁護士と一緒に

「清水建設の橋梁技術者として、国内では月夜野大橋（群馬県）、河成橋（愛媛県）、鳴瀬川橋（宮城県）などに関わってきた。海外ではマレーシア・シンガポール第2連絡橋（マレーシア・シンガポール）、台湾新幹線（台湾）、バイチャイ橋（ベトナム）などのプロジェクトに関与した。土木技術部長、設計部長、土木技術本部長を経て、定年後は再雇用でドバイの現場を中心に活動した」

「現在は退社して、個人契約で

エンジニアの楽しさ伝えたい

ホーチミンの道路プロジェクトでレジデント・エンジニア（RE）を務めている。2・3ヶの橋梁を含む全長3・1ヶの道路工事の施工監理を任されている。コントラクターからの申請や計画を審査・承認し、現場で起きるであろう不具合に警告を発し、品質管理の甘さに喝を入れるのが私の仕事だ」

「定年後に海外に出ることにした理由は、

「私は橋梁技術者だと自負して

ふさわしい地位と待遇を

おり、やはりエンジニアとして活動している時が楽しいと気付いた。その場が国内になかったので

「あるべきだと考えますか。『エンジニアが元気になるなければ始まらない。『夢』は地位と

海外に出た。親や家族など多くの人の理解と幸運のお陰だと思っ

「エンジニアの育成についてどう考えますか。

「エンジニアの育成は、しかるべき基礎教育の後、早いうちに責任と権限を与えることが一番だ。トップエンジニアを経営陣に据えることも必要だろう」

「夢のある産業」として発

うあるべきだと考えますか。

「エンジニアが元気になるなければ始まらない。『夢』は地位と

待遇に比例する。『ものづくりの喜び』だ、『感動』だ、『達成感』だ、などと言っているのは駄目だ。一握りの一流エンジニアに、世間や後進から『すごいなあ』と思われる地位と待遇を与えることだ。

「さらに言えば、夢のある建設産業にするには、一流エンジニアと少数の有能な経営者で会社もしくは団体を作ることだ。二流エンジニアは入れず、そこで働くこと

がステータスとなるような組織だ。ゼネコン、コンサルタント、国、企業者は、プロジェクトベースもしくはチームベースでその組織と契約すればよい」。



現地スタッフに指示を与える渡辺氏（右から2人目）。時に厳しい言葉をかけても、現場の技術者は平気でものを聞きに来るとい

日本建設機械商

代表取締役 会長
代表取締役 社長

本社 東京都新宿区
電話 〇三三三
東京事業部 東京都新宿区
電話 〇三三三
幸手市大字木立
電話 〇四八〇